

[成果情報名] Glucose を含む後処理でバラの日持ちが大幅に伸びる

[要 約] バラの日持ち延長に2%Glucose を含む後処理が有効で、ベントネックが大幅に減って日持ちが平均 5 日間以上延長される。

[キーワード] バラ、日持ち、後処理

[担 当] 静岡農林技研・花き科

[連絡先] 電話 0538-36-1555、電子メール agrikaki@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 関東東海北陸農業・花き

[分 類] 技術・普及

[背景・ねらい]

バラの日持ち保証販売を実現するために、消費者段階で 7 日間以上日持ちする後処理方法を開発する。

[成果の内容・特徴]

- (1) バラの日持ち向上には糖を含む後処理が有効で、糖の種類としては Sucrose よりも Glucose または Fructose の効果が高い(図1)。
- (2) 後処理液の組成は2%Glucose+50mg/l硫酸アルミニウム+0.1ml/lイソチアゾリン系抗菌剤 CG(イソチアゾリン系抗菌剤) が適当である。
- (3) ‘アヴァランチェ’では後処理によって日持ちが向上し、どの季節でも 12 日間以上となる(図2)。
- (4) ‘サムライ 08’では後処理によってベントネックがほとんど無くなり(図3)、どの季節でも 10 日間以上となる。
- (5) 後処理は RH50%の低湿度環境、28℃の高温条件でも日持ち延長効果がある。
- (6) 調査した 21 品種全てで日持ち延長効果が確認された(図4)。 28℃では平均 5 日間程度延長される。

[成果の活用面・留意点]

- (1) 模擬輸送として収穫したバラを 3 日間 2℃の冷蔵庫内で保管してから、日持ち試験を実施した。試験環境は 23℃、相対湿度 70%、12 時間日長を基本とした。
- (2) 試験では吸水量に応じて同じ組成の液を補充した。水を注ぎ足した場合は日持ち延長効果がやや劣る。
- (3) 日持ち調査にはイソチアゾリン系の抗菌剤を使用し、他の抗菌剤は調査していない。

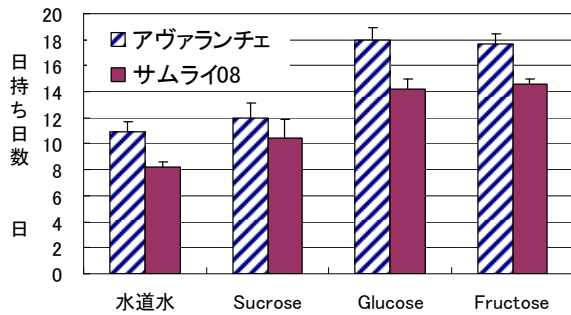


図1 後処理の糖の種類がバラの日持ち日数に及ぼす影響
4月収穫、糖濃度はいずれも2%

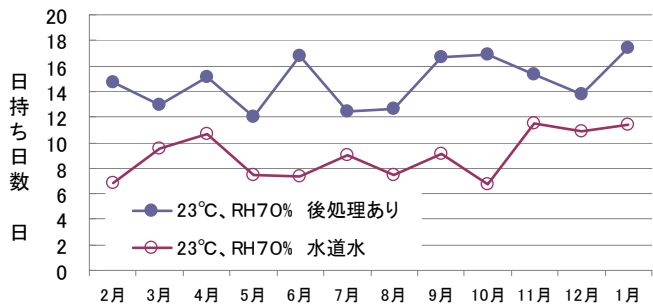
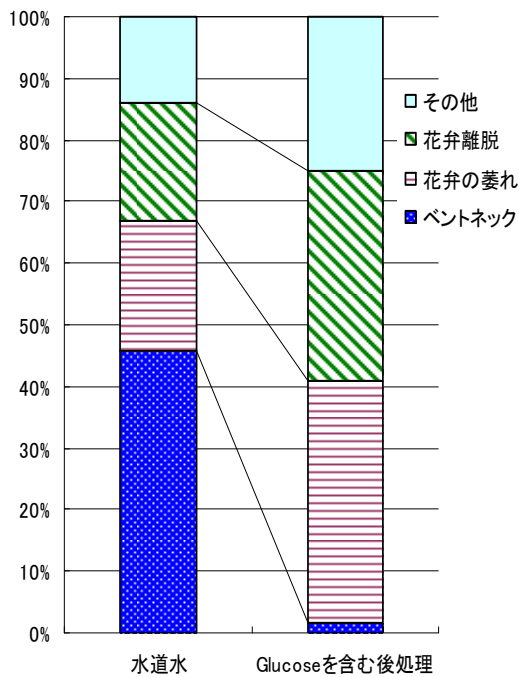


図2 バラ‘アヴァランチェ’の時期別の日持ち日数



日持ち 平均 8.4 日間 平均 13.8 日間

図3 ‘サムライ 08’ が観賞限界に至った症状

毎月1回調査で12回の合計 n = 120
23°C、RH70%で実施

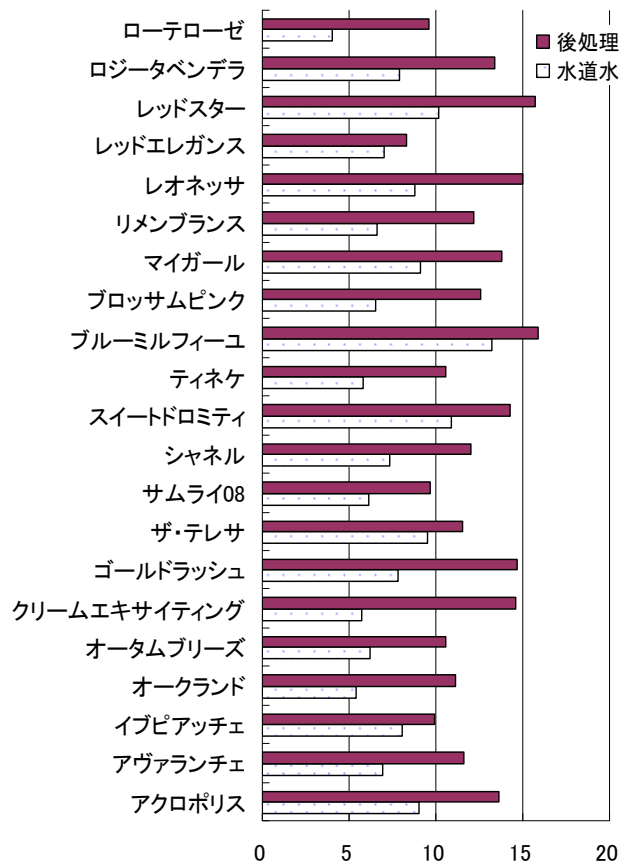


図4 バラの後処理による日持ち延長効果

調査は H24 年 8 月～11 月 n=10
28°C、RH70%で実施

[その他]

研究課題名：ガーベラ・バラの日持ち性向上技術の開発

予算区分：国委（実用技術開発事業）

研究期間：2010～2012 年度

研究担当者：本間義之、外岡慎、貫井秀樹、石田圭祐